

6から数分後。

主人公、モニカを人気のないところへ連れて行く。  
場所は、お祭りをやっている神社の建物の裏。

二人は、建物の奥の、縁側のような、座れる場所に隠れている。  
辺りには誰もいない。が、もし来たとしてもおかしくはない場所。  
花火は遠くで聞こえる。

**SE1**：花火大会の環境音 【0～5秒ほどまで流してSE2。その後、一度フェードアウトするまで流し続ける。花火大会会場からは離れている印象にするため、ボリュームは小さめにする】

**SE2**：主人公とモニカの足音 【トラック7のSE10と同じ音。0～5秒ほどまで流して15のセリフ】

【なぜかこそ、小声で話す】

「ず、ずいぶん。人気（ひとけ）のないところね。こんなところまできて何をするつもり？」

駅はあつちよ？」

〈主人公〉

「モニカさん」

「ん？」

〈主人公〉

「状況を打破する手段はこれしかない。」「でえつちしよう」

「え、ええーー!!」

〈主人公〉

「モニカの気持ちは非常にわかる。

私も自分で言っておいて、かなり『えーー!!』って思ってる」

「そりやそりや！ そんなの普通じゃないわよ。

【言いつらぐ、少し間が空ぐ】

「いくぐ、人のいないところとはいき。」

そ、外よ……？」

〈主人公〉

「まあまでは私の話を聞いてほしい。

私なりに、モニカの大化が止まる方法が具体的に何なのか考えたんだよ。

『えつちしたら治る』とはいって、それだけじや漠然としがれてるからね。

思えば初めてした時、私にしてくれてる時は、モニカの身体に変化なかつたけど。私がしてあげて、モニカがイッちやつたら、あつさり耳は人間に戻つたよね。

つまりモニカが気持ちよくなれば……。

耳は引っ込んで人間モードに戻ると思うと私は考えている」

「冷静に分析しないで！ 恥ずかしいからあ！」

【小さな声で】によ話す】

「でもそうよね。いつも、私が気持ちよくなつたら、身体は元に戻るものね。だから、今日もそうすればいいわよね。

私もつ。そう思うけどお……だけど、だけどお……」

しばし沈黙。

〈主人公〉

「このままなんとか誤魔化して家に戻つて。

それからえつちするつて方法もあるけど。

ここから家までちょっとあるし……。

この辺で何とかするにしても、多分今日は、ホテルとかも混んでる。

いつ入れるかわからなくて、かえつて時間がかかるかもと思うと、ちょっと怖いよね……。

ていうか正直に言うと。

今日のモニカいつもに増して可愛いから。今すぐいちやいちやしたいといいますか……。だって、何かあって手遅れになつたら怖いし……」

【怒つているようだが、本当は嬉しい】

はあー………… カ 色々もつともららしい理由をつけておいて、本音はそれねつ？ 浴衣姿の私が可愛いから、我慢できなくなつちやつたつて訳ね………… もう！ もう！ 変態つ……」

〈主人公〉

「その通りです……。

だつてモニカ、想像してた以上にその浴衣、似合うんだもん。

すゞく可愛い。今日お祭りに来てる人の中でダントツで一番可愛い。

人々の中でもモニカだけ輝いて見える」

### 【本当は嬉しい】

もお。呆れたわ。バカな人……！

### 【少し間を空けて。甘えた雰囲気で】

……でもね。我ながらバカだとは思うけど。  
ちょっとと嬉しくなってる自分が嫌あ……。

だつて。本当はちょっと不安だったの。今日の私、ちゃんと。できるのかなって。  
人間の女の子として、あなたとちゃんと歩けてるのかなって……。

### 【泣きそうになる】

だから、今可愛いって言うなんて、ずるい……。

### 【少し間を空けて。甘えた雰囲気で】

ねえ。あなた、ちゃんとわかつてる……？

私。あなたと恋人になれた今が、本当に幸せなの。  
たとえあなたが。思つてたよりかなりえつちな人でもつ。

### 【話しながら、どんどんドキドキしてくる】

褒められたら飛び上がりそうな程嬉しいし。

い。一緒にいるだけで。こうやって手を繋いでるだけで……。  
すゞくドキドキつ、してるの！』

モニカ、主人公に抱きつく。

主人公の首に両手を回して、至近距離で話す。

### SE3 .. モニカが主人公に抱きつく音 【すべて流す】

「ばかあ。もうあなた、やだあつ。  
でも好きい。

これじや。私の方がバカだわつ……。

### 【キスする】

もお……。

こんなところでなんて……。本当に本当に変態！  
絶対この身体、治してくれなきや嫌なんだから。  
絶対気持ちよくしてくれなきや嫌なんだから……♥

【20秒ほどキスする。ゆっくりした、甘いキス】

ちゅ♥ んつ。ふつ……♥ あ♥ ん♥ ちゅつ♥ くちゅるつ……ちゅ♥ ちゅ♥ ん  
うつ……ちゅつ♥ ちゅ♥ 「

〈主人公〉

「モニカ……可愛い……大好き……」

「また、そんなのずるいつ……。

あのねつ？ わかつてるつ？

私の方があなたより、絶対絶対大好きなんだから……！

【キスする】

ん♥

【10秒ほどキスする。濃厚なキス】

ちゅつ♥ ちゅぱつ♥ くちゅ♥ ちゅつ♥

【浴衣の中に手を入れられて、息をのむ】

はつ……♥ ひや�

あつ……♥

【主人公が手を引っ込めそうになつたので】

あつ……違うの……つ。やめてほしいんじやないの。

嫌じや、ないの……つ

モニカ、主人公の手を、自分の股間に導く。自分の股間を、浴衣越しに触らせる。

SE4..モニカが主人公の手を、自分の股間に導く音【すべて流す。『急に大きな音がした』という印象にならないように、ボリュームはかなり小さめにする】

【10秒ほど荒い呼吸】

はあ、はあ、はあ……♥

【勇気を出して言う】

あ、のね……?

私。あなたの事あれだけひどく言つておいて。

【声が震える】

ほんとは、この、中。

さつきからずつと。ぐちゅぐちゅに、なつちやつてるの……。

ほんとはすぐつ。ドキドキ、してるので……！」

モニカ、自ら帯を解いて、浴衣を脱ぐ。

**SE5**.. モニカが浴衣を脱ぐ音 【0~7秒ほどまで流して 149 のセリフ】

「あは……♥ 我ながら、どうかしてると思う、わ……。  
自分からこんな事、しちやうなんて。誰か、来るかもしないのにつ……。  
でもねつ？」

私、あなたとだつたら、えつちすぎる思い出もほしい……。

初めてきた、夏祭りで。こんな恥ずかしい事しちやつた思い出すべらつ、ほしい……つ♥

**【恥ずかしいので、主人公のせいにしたい】**

ねえつ。こんな全部。あなたがいけないのよ……?

あなたがいつも優しくて、甘えさせてくれて。いっぱい気持ちよくしてくれるからあ。

私犬だつた頃よりずっとあなたの事好きになつちやつたの。

あなたとだつたら何でもしたいのつ……!

**【早口で、甘えた声で】**

だから触つて？ 私の事、気持ちよくして？

身体がどうとかもういいの。私今あなたに触つてほしいの。お願いつ

**SE6**.. 主人公がモニカの下着に手を入れる音 【トラック5のSE12と同じ音。6~9秒ほどまでを流す】

**SE7**.. 主人公がモニカの股間を愛撫する音 【178まで繰り返し流し、セリフの内容によつて適宜スピードとボリュームを変える。詳しい指示はセリフ内の緑の網掛け】

**※最初はボリュームは小さめ。0~1秒の最初の『くちゅ』のみ流して 178 まで一度止め、171 のセリフ。**

**【直接クリトリスを愛撫されて】**

あ♥

〈主人公〉

「ほんとだ。すつゞく、ぐぢやぐぢや……」

**【観念して認める】**

……でしょ？ 私も、あなたと同じ位。変態つて、事ね……。

**※まだボリュームは小さめ。続きを流し始める。1~2秒ごとの2回目の『くちゅ』を流してから181のセリフ。ここから先はSEを流し続ける。**

**【直接クリトリスを愛撫されて】**

ああっ……♥ すゞ) いつ……気持ちいいつ。ふあっ……  
——。うへへ、出へつて、こちへつて、出へつて、

えへー、お外で声出しちゃいけないのは、出ちやう……  
200秒ほど端ぐ。押し殺そうとはするが、結局漏れてしまう

ふああつ♥ ひやつ♥ んんつ……♥ あ♥ ……あ♥ ん……

あ  
♥  
。  
。  
。  
。  
。  
。  
。  
。  
。  
。

ああああああんんんん

ああ。気持ちいいっ……  
♥

※ボリュームは187と同じだが、ここから少しスピードが上がる。

「20秒ほど叫く次第に声が力きください」進して下さい。

## 【ここで達する】

ああああつ……  
※ここでSE7終わ

「（和洋）方に一叫喚  
はあ、はあ、はあ……」

主人公

「モニカ……気持ちよかつた……？」

「ばつ、間を空けて」

うんつ……気持ちよかつたあ

【少し間を空けてから。軽くキスする】

セイ・タニ

しばらく、環境音のみが続く。その後、一度フェードアウトする。

SE 8..外の環境音【花火大会はすでに終了。『虫がうるさい』という印象にならないよう  
に、ボリュームは小さめにする】

「ああ。ろくに見ないうちに花火が終わってしまったわ……」

主人公、仕方のない事とはいえ、モニカに申し訳なくなる。  
モニカの頭を撫で『とりあえず近所で他に花火大会ないか調べてみよう』と考えつつ、近日中に手ごろな花火大会があるかどうかはわからない。  
ひとまず『来年も一緒に来よう』と励ます。

**SE9**…主人公がモニカの頭を撫でる音【トラック6のSE3などと同じ音。0~4秒ほどまでの2回分の『ほん、ほん』を流す】

〈主人公〉

「あはは……。今日は確かに残念だったけど。  
また来年もあるよ。来年も一緒に来よう？」

【単純なので切り替えが早い】

……あ。そつか。そうよね！

【主人公から『来年』という言葉が出たのが嬉しい】

また来年、来ればいいわよね！えへへ

しかしモニカ『来年』という言葉が出た事で、とある事を思い出す。  
昨日例の『お姉さん』から言われた話である。

【少し間を空けてから切り出す】

あのね……。今日はこんな事になっちゃったけど。昨日、例のお姉さんから連絡があつて。  
もうすぐ私、身体が安定して、完全に人間になれるんですって」

〈主人公〉

「それはつまり……！」

「つまり。今日みたいな事はもう起きなくなるって訳」

モニカ、そうなれば主人公に迷惑をかける事はもうなくなるし、喜ばしいのはわかっているのだが、少し不安になる。

その必要がなくなつてしまつたら、主人公はもう自分とえっちしてくれなくなるのでは  
……。と思つてしまふ。

〈主人公〉

「そ、うなんだ！ やつたね！ これで一安心だ！  
……モニカ？ どうしたの？ なんだか不安そうだけど……」

【不安そうに】

「でも。あの……。ねえ。私が完全に人の身体になれても。  
今日みたいに……またしてくれる？  
あのでも！ 外でじやつ！ ないけどっ！」

〈主人公〉

「え？ 当然だよ！ もうしないの？ そんなのいやなんだけど…！」

モニカ、主人公の回答にホツとする。  
同時に主人公をつくづくスケベな人だと思うが、それは自分も同じなので『まあいいか』  
と思う。

「本当……？ よかつた♥

えへへ。安心したわ！ そうよね。私達付き合ってんのね！

【甘える】

ね。ちゅーして？

【キスする】

ちゅ♥

モニカ、不安に思っていた事も解決し、いよいよホツとする。

が、そこでふと『なんか寒いな？』と気づく。

それもそうである。あれだけ苦労して着た浴衣を、自分は脱いでしまったからである。

【（）】で、ハツ、と気づく

ところで私。ノリで浴衣を脱いでしまった訳だけど。  
ちゃんと着て帰れるかしら？」

〈主人公〉

「あ？」

【『やつぱりこの人忘れてた！』とあきれる】

『あつ』じゃないわよう！ やつぱり何も考えてなかつたでしょう！

まあいいわ！ また二人で頑張って。  
私の事。このお祭りで一番可愛い子にしてね！」

しばらく環境音。やがてフェードアウトする。